

りゅうごづかとう
立鼓柄刀

表



裏



指 定 市有形文化財 平成 28 年 12 月 22 日
所有者 佐久市

立鼓柄刀は柄の部分が「鼓」のように湾曲していることからこの名が付き、茎に木を添えず、直接糸や紐などを巻いて柄とする古代の刀である。古墳の副葬品として発見されることが多く、東北地方出土のものも多く知られている。

当該の「立鼓柄刀」は、臼田字法印塚に所在する市史跡「蛇塚古墳」（昭和 47 年 5 月指定）から昭和 59 年の発掘調査により市有形文化財「蕨手刀」（平成 5 年 7 月指定）とともに出土した。また、県内の古墳で蕨手刀と組み合わせられ副葬された事例として初見である。

当該刀は、全長 63 cm の大型品で、刃切先部までもが完全に残存し、鏝や 4 種類の鞘金具が完存する優品である。制作年代は鞘金具の形態より飛鳥～奈良時代（7 世紀後半～8 世紀代）と考えられる。

県内においては、この他に茅野市矢ヶ崎で昭和 17 年頃に発見された 1 振が確認されているのみである。

当該刀は、蕨手刀とともに古代律令期における佐久地域の歴史像を考える上で欠くことのできない貴重な資料である。